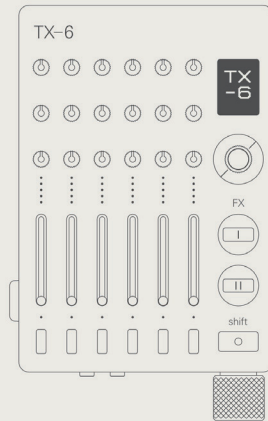


# TX-6 ユーザーガイド



## はじめにお読みください

### 警告と重要な注意事項

本ユニットを他のデバイスに接続する前に、すべてのユニットの電源をオフにしてください。これにより、スピーカーやその他のデバイスの誤動作や損傷を防ぐことができます。使用中にケーブルを接続／切断する必要がある場合は、必ず最初にケーブルをTX-6に接続してください。

TX-6の入力または出力からの3.5mmプラグを、ファンタム電源が有効なマイク入力に接続しないでください。これにより、TX-6が損傷する可能性があります。

本機の充電は、必ずパソコンのUSBポートから供給される5VのUSB電源、または専用のUSB充電器を使用してください。

規制に関する内容はこちらをご覧ください。

TX-6を常に水平に配置し、安定した状態を保つようにしてください。

周囲温度が0° Cから50° C (32° Fから122° F)で、相対湿度が95%未満の環境でTX-6をご利用ください。次のような場所にユニットを設置したり、使用したりしないでください。

- ・湿度の高い場所や、風呂場や洗面所など。
- ・安全性を重視するアプリケーション。
- ・核施設や兵器システム
- ・航空宇宙用途や自動車搭載環境など

### ご注意

電池の種類を間違えたり、本体に穴をあけたりすると、爆発や火災の危険があります。

このような場合、充電や使用はしないでください。バッテリーは、teenage engineeringが供給し、有資格者が取り付けただけのものを使用してください。電池を火中や高温の炉内に捨てたり、電池を機械的に押しつぶしたり、切断したりすると、爆発の原因となることがあります。

爆発や引火性液体・気体の漏えいの原因となる、極端に高温の環境下に電池を放置すること。

聴力障害を防ぐために、高い音圧で長時間聴かないこと。

万一飲み込んだ場合は、すぐに医師にご相談ください。

### 保証と返品について

TX-6の保証期間：購入日より12ヶ月

※ただし、落下、粉碎、デバイスのコネクタへの不適切な電圧の適用、不適切な設計または実行による改造など、誤った使用による不具合や物理的な破損は含まれません。

特に、5V USB電源以外の充電方法で発生した損害については、お客様が単独で責任を負うものとします。

送料はお客様ご負担となります。詳しくはこちらをご覧ください。

## インデックス

### 同梱品

オーディオインプット

オーディオアウトプット

オーディオ入力例

オーディオ出力例

電源オン

充電

ファームウェアアップデート

起動

選択

シフト

ガイド規約

ノブとボタン

フェーダーとメーター スクリーン

操作全般

入力モード

トラックメニュー

ソロ

ミュート

パラメーターノブ

イコライザー

パラメーターノブ設定

FX ボタン

FX I

FX II

テンポ

AUX アウト

CUE アウト

ヘッドセットマイク

インストルメントチューナー

システムメニュー

VU メーター

リミッター

メモリ・プリセット

USB

シンセモード

シンセの設定

DJ モード

LED 設定

輝度とテーマ

MIDI

BLE (Bluetooth)

gnd (USB グランドアイソレーション)

OS バージョン

バッテリー

リセット

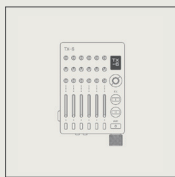
シグナルフロー

フィールド

MIDI リファレンス

技術仕様

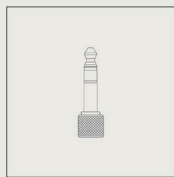
## 同梱品



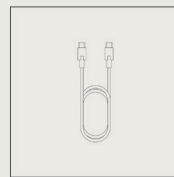
TX-6 ユニット



ユーザーズガイド

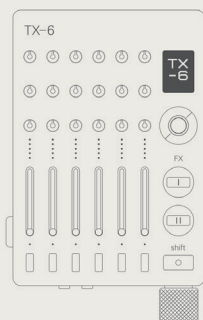


6.3mm アダプター



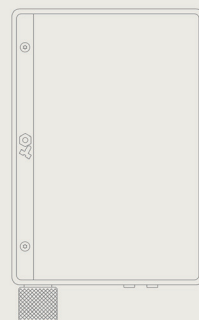
USB-C ケーブル

## ハードウェア



耐久性のあるアルミニウム製で、裏面は合成皮革、ノブとフェーダーはカスタムメイドです。

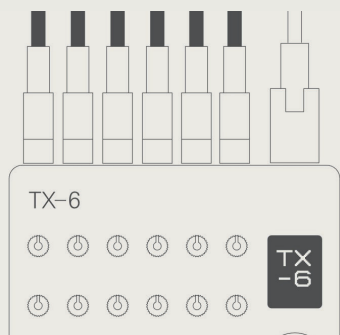
ミキサーとしてだけでなく、USB オーディオ・インターフェイス、内蔵シンセサイザー、シーケンサーなど、さまざまな機能を備えています。



セレクトノブとボタンを中心とした主な操作と、ナビゲーションは、コンパクトな有機 EL スクリーンにすべての機能が表示されます。

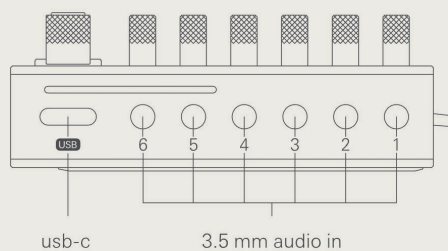
このガイドでは、TX-6 のレイアウト、接続性、各種モード、一般的な機能について説明します。

## オーディオ入力



オーディオ入力は、本体上面に配置されています。

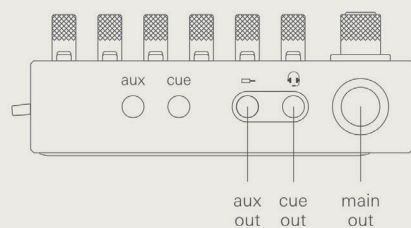
USB Type C ポートは、マルチチャンネルオーディオインターフェイスとしてだけでなく、MIDI 制御、ファームウェアの更新、および充電にも使用できます。



3.5mm ステレオミニジャック入力ソケットが6つあり、すべての入力ソケットを個別に設定することができます。

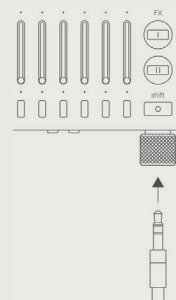
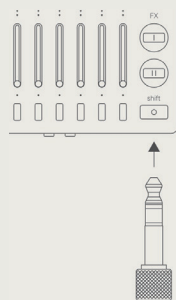
このため、最大6系統のステレオソースまたは12のモノラルソースを6つの物理インプットに簡単に接続することができます。

# オーディオ出力



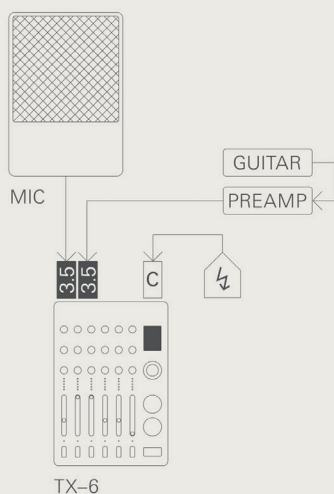
オーディオ出力はユニットの底面にあります。

3.5mm ステレオミニジャック (Aux 出力)、3.5mm ヘッドセット/マイクミニジャック (Cue 出力)、6.35mm ステレオジャック (Main 出力) の3つの端子を搭載しています。



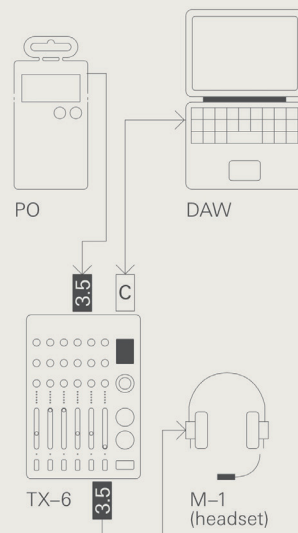
メインアウトには、付属の 6.35mm ステレオジャック -3.5mm ミニジャックアダプター (取り外し可能) が適合します。

## 接続例



オーディオソースを TX-6 オーディオ入力に接続します。

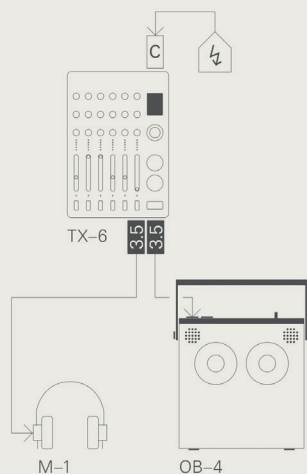
pocket operator、OP-1、OP-Z、またはその他のラインレベルソースなどのユニットを接続できます。pocket operator Modular は、スピーカー出力を介して接続する必要があります。最適なギターとマイクの接続には、プリアンプが必要な場合があります。



cue out には、M-1 などのヘッドセットマイクを直接接続が可能です。

USB は、MIDI コントロール、ファームウェアのアップデート、充電に加え、オーディオ入力にも使用できます。

# オーディオ出力例

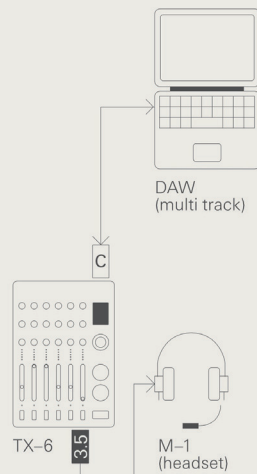


TX-6 の各出力は、ヘッドホン、スタジオモニター、PA スピーカー、その他さまざまなオーディオ機器に接続することができます。

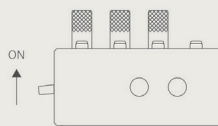
main out は、メインのオーディオ出力信号として使用します。

AUX、CUE OUT はモニタリングやレコーディングのほか、エフェクトループの作成にも使用できます。

USB は DAW へのマルチトラックレコーディングにも使用可能です。



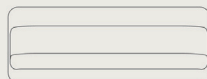
## 電源



電源スイッチを上にして、本機の電源を入れます。



スイッチ横の LED が点灯し、ユニットがオンであることを示します。



TX-6 のディスプレイにパワーアップタイトルが表示され、メインレベル、左右の VU メーター、バッテリーレベル、USB チャージインジケータが表示されます。

## 充電

ユニットは USB ポートを介して充電されます。バッテリーレベルは、ホーム画面のシステムメニューに表示されます。

ユニットの電源を切った状態で充電する場合は、いずれかのボタンを押してバッテリー残量を表示します。バッテリーが完全に充電されると、サイド LED が緑色に変わります。

バッテリーを適正に保つために、ユニットは少なくとも 6 か月ごとに充電する必要があります。長期間使用しないと、再度充電できない場合があります。

# ファームウェアのアップデート

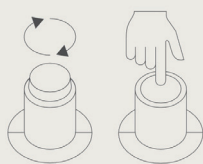
- TX-6 を USB でコンピュータに接続します。
- 電源を入れたままキューボタンを押し続けると、ファームウェアアップデートモードになります。
- デバイスはストレージディスクとして表示されます。
- 新しいファームウェアファイルをディスクにドラッグして入れ、イジェクトしてください。
- アップデートの完了を待ちます。

最新ファームウェアはこちらからダウンロード可能です。

## スタート

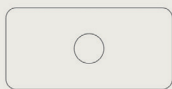
まずは TX-6 を知ることからはじめましょう。

## 選択



セレクトノブを回して、メイン音量やパラメーターを調整したり、システムメニューを操作したりすることができます。

## シフト



メニューの終了やホーム画面への復帰に使用します。

# ガイド規則

ボタンを順番に押す必要がある場合もあれば、組み合わせて押す必要がある場合もあります。これらのイラストとテキストは、ガイドに従うのに役立ちます。

ボタンを押すには、ボタンをタップしてから離します。ボタンを押したままにするには、ボタンを押し続けます。ノブやボタンの多くは、コンテキストに応じて異なる機能を備えています。



メイン選択ボタンを押します。



メイン選択ノブを回します。



最初に1つのボタンを押し、次にもう1つのボタンを押します。



最初のボタンを押し続けさま、次に2番目のボタンを押します。

## ノブとボタン



FX I



FX II



トラックボタン



AUX ボタン



cue ボタン



パラ미터ーノブ：青



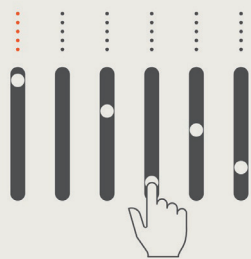
パラ미터ーノブ：オレンジ



パラ미터ーノブ：白

パラ미터ーノブは、デフォルトでは3バンドEQを制御しますが、他の様々なパラ미터ーを制御するように設定することも可能です。

# フェーダー＆メーター



フェーダーはトラックの音量を調節します。各トラックの入力レベルはLEDのVUメーターに表示されます。入力信号にクリップが発生すると、5つのLEDすべてが赤く点灯します。

チャンネルが結合されたモノインプットとして設定されている場合、フェーダーは左右両方の入力信号を制御します。

システムメニューからLEDの明るさを制御することもできます。

## ディスプレイ

ホーム画面には、メインのVUメーター、バッテリーの充電状態、メインの音量設定が表示されます。機能がアクティブになったり、ノブを回したりすると、前の画面に戻る前にディスプレイに反映されます。

1分間操作がないと、電力を節約するためにディスプレイが自動的に暗くなります。しばらく触れないでみると、表示が消えます。いずれかのボタンを押して、再度アクティブにします。



タイトル画面



ホーム画面／マスターレベル



ホーム画面 / マスターレベル。FX I と FX II がアクティブ状態です。



ホーム画面。フェーダーの正確なレベルを表示します。

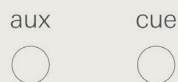
# 一般的な操作



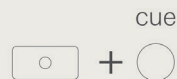
ソロ／ミュートを行います



トラックメニューを循環させます。



aux / cue ページを表示します。



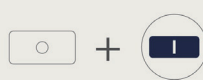
mic ページを表示します。



システムメニューを表示します。



効果を有効にします



FX メニューを表示します。



メインボリューム  
ホーム画面からノブを回して、メインボリュームを制御します。



テンポ  
ホーム画面から選択を押して、テンポ画面を表示します。



メニュー  
Shift キーを押しながら選択を押して、システムメニューにアクセスします。



メニューの終了  
メニューを終了するには、Shift キーを押します。

# インプットモード

入力端子にプラグが接続されると、TX-6 がそれを検知してダイアログが表示され、モノラル、ステレオ、スプリットのどの構成を使用するかを選択することができます。

スプリッターケーブルを使用して2つのモノラルソースを同じ入力に接続することができます。

このモードでは、パンがこれらの2つの信号のバランスを制御します。ノブを回してボタンを押し、確認して終了します。

出力端子も接続を検出します。

## line in



### mono

左の入力信号が両チャンネルにミックスされます。



### stereo

デフォルトの左右のステレオミックス。



### split

スプリッターケーブルを使用する場合、左右の信号を入力します。



### メイン検出

メイン出力にプラグを挿入すと認識されます。

## aux out



### aux 検出

aux out にプラグが挿入されると認識されます。

## cue out



### cue 検出

cue out にプラグが挿入されると認識されます。

# トラックメニュー

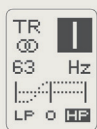


shift を押しながらトラックボタンを押すと、トラックメニューが表示されます。シフトを押しながら数回押すと、設定が切り替わります。パラメータノブに設定が割り当てられていない場合は、セレクトノブを回して調整します。

例えば EQ のように、1 つのページに複数の設定がある場合は、セレクトボタンを押すと、そのページの次の設定に移動します。

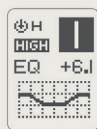
shift を押して、ホーム画面に戻ります。

## filter



ローパス／ハイパスフィルター

## equalizer



ハイ / ミッド / ローの3バンドイコライザー。

## compressor



コンプレッサー

## gain



入力ゲイン

# パニング



左右のパン

ヒント：セレクトボタンを1秒間長押しすると、現在のパラメータがデフォルト値にリセットされます。

# solo

トラックボタンが他の機能操作を行っていない場合、それらはソロに使用されます。トラックボタンを押して、ソロにするトラックを選択します。ソロのタイプはシステムメニューから設定します。

4つの異なるソロモードがあります。

- solo- 他のトラックをミュートします。
- mute- アクティブなトラックをミュートします。
- solo momentary
- mute momentary

ソロやミュートは、ミキシング時だけでなく、演奏時にも有効です。

ミキシングでは、ソロを使用してミックスの一部を分離し、個々の要素がミックスの中でどのように組み合わせられているかをより理解することができます。演奏では、ミュートを使ってトラックをミックスでオン／オフし、ミックスを分解したり組み立てたりしてクリエイティブに楽しむことができます。

プロヒント：ミュートしたトラックは cue out でも聞くことができます。

## solo



solo mode

選択したチャンネルをソロにし、他のチャンネルをミュートにします。

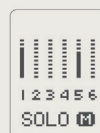
## mute



mute mode

チャンネルボタンを押すと、選択したチャンネルをミュートします。

## compressor gain



solo momentary

トラックボタンを押したまま、選択したチャンネルを一瞬だけソロにし、他のチャンネルをミュートにします。



mute momentary

チャンネルボタンを押しながら、選択したチャンネルを一瞬だけミュートします。

# パラメーター・ノブ

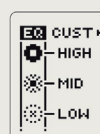


6つのトラックにはそれぞれ3つのポテンショメーターがあり、これがパラメーターノブです。デフォルトでは、3つのノブはバンドごとに  $\pm 18$  dB のゲインを持つ3バンドイコライザーを制御します。

複数のトラックをミックスする場合、複数のトラックをミックスする場合、EQ を使用して各トラックの周波数を調整し、全体としてバランスの良いミックスになるようにします。

イコライザー

パラメーターノブのデフォルトレイアウト



# イコライザー



青いノブは高域をコントロールします。



オレンジのノブは、中域をコントロールします。



白いノブは低域をコントロールします。

## パラメーターノブ設定

カスタムノブ・スキームは、使用可能なパラメータをシステムメニューの pots 設定から設定することができます。

トラックごとに個別の構成を設定することも可能です。ノブにパラメーターが割り当てられている場合、トラックメニューからコントロールすることはできません。パラメーターノブを回すと、設定が画面に短時間表示されます。

カスタムノブスキームに割り当てることができる使用可能なパラメーターは次のとおりです。

- flt - ハイパス / ローパスフィルタ
- comp - コンプレッサー
- pan - パン
- EQ H - イコライザー・High
- EQ M - イコライザー・MID
- EQ L - イコライザー・Low
- AUX - AUX センド
- FX I - FX I センド
- freq - 発振器周波数
- len - シーケンサの音長。

## custom



custom

すべてのポテンショメーターに設定可能なスキームです。

## per track



track

ポテンショメーターの個別設定。トラックボタンを使って設定します。

## synth



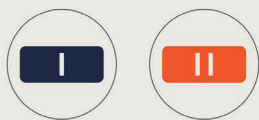
synth

内蔵シンセサイザーとドラムマシン専用のシンセコントロール。

プロヒント：

シンセ設定は、シンセエンジンを制御するためにすべてのパラメーターノブをすばやく割り当てます。シンセモードを使用する場合に最適です。

# FX ボタン



2つのFXボタンのいずれかを押し、エフェクトのオンとオフを切り替えます。

Shiftキーと2つのFXボタンのいずれかを押し、オーディオエフェクトメニューを表示します。FXボタンをもう一度 (Shiftキーを押しながら) 押すと、次のエフェクトに切り替わります。

FX I はセンドエフェクトに使用され、トラックからの信号の一部をエフェクトに送ってから戻すことができます。

選択を回してパラメータを調整するか、プリセットを変更します。

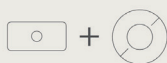
複数のパラメータがある場合は、select をクリックして次のパラメータに移動します。

Shiftキーを押してメニューを終了します。

メイン画面でアクティブなエフェクト。



プロヒント：fx画面でcueボタンを押し続けると、メイン出力でエフェクトを有効にせずに聞くことができます。



FX I ページがアクティブのとき、track ボタンを押しながら select を回すと、各トラックのセンドレベルを調整できます。

shift を押しながら select を回して、FX I のリターンレベルを調整します。

FX I のエフェクト・センドレベル。

FX I のエフェクト・リターンレベル。



FX I:  
chorus : 弱

FX I:  
chorus : 中

FX I:  
chorus : 強

FX I:  
reverb : drone.  
more : light、small、  
medium、large



FX I:  
delay : 3/2.  
more : 1/8, 1/4, 2/3, 3/4, 1, 3/2.

FX I:  
delay : warp

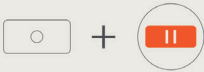
FX I:  
delay : mash

# FX II

FX II はインサートエフェクトに使用され、アクティブにするとすべての信号がエフェクトを通過します。

FX II は、単一トラックまたはメインミックスでかかるように設定することができます。

FX II のページで、任意のトラックボタンをクリックしてトラックを選択します。選択したトラックを再度クリックすると、メインモードが選択されます。



FX II :  
tremolo



FX II :  
freeze



FX II :  
tape: stop 1.  
more: stop 2, pong



FX II :  
filter



FX II :  
distortion: push



FX II :  
distortion: drive



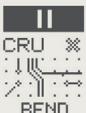
FX II :  
distortion: blow



FX II :  
distortion: dstroy



FX II :  
crush: shape



FX II :  
crush: bend



FX II :  
crush: chi



FX II :  
crush: bit

# tempo



ミキサーには、ローカルで設定したり、外部 MIDI クロックで制御したりできるテンポ機能を搭載しています。

メイン画面で、select を押してテンポ画面を表示します。



select を回して、希望のテンポを 40 ～ 400bpm に調整します。



fx I ボタンを使用してタップテンポを設定し、fx II ボタンを使用して新しい開始点を設定します。



shift キーを押しながら select を回して、MIDI 同期モード（out または in）を選択します。

tempo 画面で、select を押して play / stop を切り替えます。シンセモードでアクティブにすると、内部シーケンサーが起動します。

tempo は、トレモロやディレイなどのビートシンク効果に使用され、また内蔵シーケンサーのテンポも設定します。

## stopped



tempo メイン画面  
停止しています。

## playing



tempo メイン画面  
内部テンポで動作しています。

## playing



クロックが動作しており、ビートインジケータが点滅します。  
クロックを出力しています。

## playing



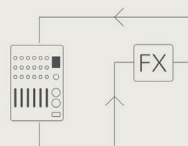
クロックが動作しており、ビートインジケータが点滅します。  
クロックが入力されています。

# aux out



aux ボタンを押すと、aux ページが表示され、各トラックの aux センドレベルを示すグラフが表示されます。aux 出力のボリュームは select ノブでコントロールし、トラックボタンを押しながら select を回して、各トラックの Aux センドレベルを調整します。

select を押すと、aux 出力がプリフェーダーかポストフェーダーかを選択する「mode」設定にアクセスできます。



プロヒント：aux 出力は、インプットの 1 つにルーティングして外部エフェクトループを作成することができます。

また、aux アウトを録音機と組み合わせて、ライブを録音することもできます。



main aux レベル



track ボタンによるチャンネルごとの個別 aux センド



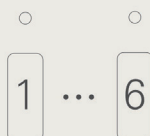
aux プリフェーダー選択



aux ポストフェーダー選択

## cue out

cue



cue out はヘッドセット出力として使用できます。  
cue ボタンを押して cue ページを表示し、track ボタンを使用して cue アウトに送信するトラックを選択します。select を回してキューボリュームを設定します。

select を押して「mode」設定にアクセスし、cue 出力モードを cue または main に設定することができます。main は、main out からどのような信号が出力されるか確認できます。



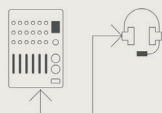
cue out ボリューム  
select ノブで調整します。音量に注意してください。



cue mode cue  
track ボタンで、どのトラックを cue アウトさせるかを指定します。



cue mode main  
main 出力にどのような信号が流れているかを正確に聴くことができます。



マイクを接続したヘッドセットで cue out を行えます。

# ヘッドセットマイク



マイク付きヘッドセットが cue out に接続されている場合は、shift と cue ボタンを長押しして操作します。もう一度 CUE ボタンを押すと、3 つのマイクページが切り替わります。



1 つのページに複数の設定がある場合は、select を押すと、複数の設定が切り替わります。



• vol - マイクボリューム 0 ～ 100。  
クリックしてマイクのオンとオフを切り替えます。(ヘッドセットマイクが実際に接続されている場合にのみ有効です)



• gain - マイクゲイン 0 ～ +31 dB  
• gate - マイクゲートのオン / オフ。  
• duck - ダッキングのオン / オフ。



- fx - mic エフェクト (none / reverb / delay).
- mic エフェクトレベル 0-100

# チューナー

TX-6 はチューナーを搭載しており、入力された音声信号のピッチを確認し、楽器のチューニングに使用できます。

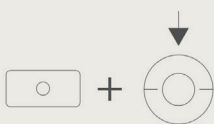


select ノブを回して入力トラックを選択するか、track ボタンを使用します。音程が自動的に検出され、ディスプレイに表示されます。



チューナーによるピッチ検出

# system メニュー



shift + select で system メニューを表示し、ノブを回してメニューをスクロールします。select をクリックすると、設定ページを選択できます。settings ページで select を回して値を調整し、押すと次の設定ページに進むか、システムメニューに戻ります。

shift キーを押して終了し、ホーム画面に戻ります。

system メニュー

select を押すと、メニュー項目にアクセスできます。

## vu meter

VU メーターは、フェーダーの前または後のチャンネルのレベルを表示するように設定できます。

pre fader メーターはレコーディングのセットアップ時に入力レベルを表示するのに便利で、post fader メーターはミキシング時や演奏時に最適です。



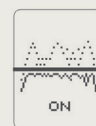
VU メーター設定 : pre fader



VU メーター設定 : post fader



limiter off



limiter on

## limiter

リミッターはオンまたはオフにすることができ、TX-6 がマスターミックスをクリップするのを防ぎます。shift キーを押しながら select を押し、リミッターまでスクロールし、もう一度ボタンを押してこの設定に入ります。select を回して、リミッターのオンとオフを切り替えます。

select を押して確認し、shift キーを押してホーム画面に戻ります。

# メモリー・プリセット

system メニューから起動した場合、FX ボタンでエフェクトの設定を保存し、即座に呼び出すことができます。

track メニューで、shift を押しながら FX ボタン I または II を押すと、現在のトラック設定（EQ とフィルター）が保存され、ディスプレイにメモリスロットが保存されたことが表示されます。ディスプレイには次のように表示されます。

保存された設定は、同じ FX ボタンを押すことで呼び出すことができます（shift は押しません）

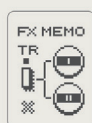
プリセットは、FX ボタンが押されている場合にのみアクティブになります。

on



track memory on

off



track memory off

## USB

system メニューの USB 設定では、USB オーディオ・ルーティングのオプションを選択します。



2ch :  
2+2 チャンネル・インターフェイス。  
メインミックス、送信および受信。

select を押して追加設定を行い、ノブを回して調整します。



12in :  
アナログ入力とミックスされた 12  
チャンネルの USB 入力。  
メイン・ミックス・ステレオ出力。

main out source :

- ext - usb 入力がメイン出力をオーバーライドします。
- mix - 信号がミックスされます。

output volume :

- メインミックスの USB 出力のボリュームをクリッピングしないように調整します。



12out :  
12 チャンネル USB 出力、ポストフェーダー。メインへのステレオ入力。  
DAW へのマルチトラック録音に最適です。

プロヒント：TX-6 は MFi 認証を取得しており、標準の USB-C-Lighting ケーブルを使用して iPhone® に直接接続できます。（カメラ接続キットは必要ありません！）

# synth mode

シンセ・モードでは、各チャンネルが設定可能な音源となり、任意の入力信号とミックスされます。このモードには4つのオプションと、追加のシンセ設定があります。

- off - シンセ・モード・オフ
- play - track ボタンでサウンドをトリガーします。
- seq - シーケンス・パターンを再生します。track 設定から選択できます。
- tone - オシレーターは常にオンです。

## off



off :  
synth mode オフ

## play



play :  
track ボタンでサウンドをトリガーします。

## seq



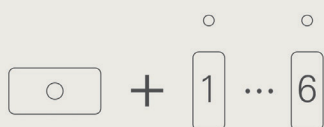
seq :  
track settings からパターンを再生します。

## tone



tone :  
オシレーターは常にオンになっています。  
ドローンサウンドに最適です。

# synth settings



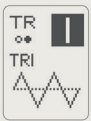
シンセ・モードが有効な場合、トラックごとにいくつかの追加設定が可能です。shift を押しながら track ボタンを繰り返し押して、この設定にアクセスします。

- sound - 波形や合成音を選択します。
- frequency - フリケンシー／トーンを調整します。
- length - シンセの長さ／減衰を調整します。
- seq - 使用するシーケンサーパターンを選択します。

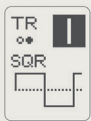
# waveforms



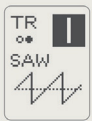
waveform :  
サイン波



waveform :  
三角波



waveform :  
矩形波



waveform :  
のこぎり波

# synthesis



synthesis :  
kick drum



synthesis :  
snare drum



synthesis :  
hand clap



synthesis :  
hi hat

# frequency



トラックごとに周波数とノートをコントロールします。

# length



シンセサイザーの長さやディケイを調整します。

# sequence



トリガー・シーケンス・パターンの選択。

# dj mode

dj モードでは、TX-6 を横向きにして DJ ミキサーとして使用することができます。アクティブにすると、チャンネル 1 は無効になり、代わりにそのフェーダーを使用してチャンネル 5 と 6 の入力間でクロスフェードし、2 つの入力間でフェードまたはカットできるようにします。

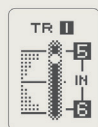
ヘッドフォンを cue 出力に接続すれば、とても便利なセットアップが完成します。

## off



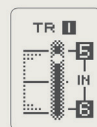
dj モードオフ  
クロスフェーダーはトラック 1 に対して通常のフェーダーとして機能します。

## slow fade

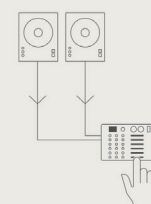


slow fade  
チャンネル 5 と 6 の間の DJ スタイルクロスフェード。

## fast cut



fast cut  
チャンネル 5 と 6 の間の DJ スタイルクロスフェード。



プロヒント：ミキサーを 90 度回転させると、DJ のように操作できます。

# led settings



LED の明るさはお好みに合わせて調整できます。system メニューから LED を選択し、select を回して LED を調整します。選択できる強度には 3 つのレベルがあります。暗い場所では下げて、日当たりの良いフィールドワークでは上げてください。



led 設定。  
select を回して輝度を調整します。  
shift を押して終了します。



# brightness and theme



system メニューでディスプレイの明るさを調整できます。shift キーを押しながら select を押し、下にスクロールして表示します。もう一度 select を押すと、ノブを回してディスプレイの明るさを調整できます。

system メニューからテーマを選択し、選択ノブを回して light モードまたは dark モードを切り替えます。

select を押して確定し、shift キーを押してホーム画面に戻ります。

display brightness: :  
低／中／高

theme :  
dark mode (例)

# ble (bluetooth)

TX-6 は、bluetooth や MIDI 機器からの接続が可能です。bluetooth はデフォルトで無効になっていますので、bluetooth 接続を行うには、system メニューの ble を有効にしてください。

近くに複数の TX-6 がある場合、混乱を避けるためにデバイスの名前を変更することができます。ble デバイス名は、name system メニューで設定することができます。



ble をオンにし、接続を受け付けます。

ble デバイス名  
ノブ回して文字を選び、select を押して進めます。

## gnd

## os version

## battery

## reset



グラウンドループノイズが発生している場合、gnd 設定で USB 充電の ON/OFF を切り替えてください。

ファームウェアのバージョン情報。

バッテリー残量／充電状態を表示します。

時計回りに回すと、ファクトリーリセット機能が有効になります。

# MIDI

TX-6 は USB と bluetooth le インターフェイスを介して MIDI を送受信することができます。クロックとトランスポートは常にアクティブです。

- 送信：
- クロック、トランスポート（再生／停止）
  - フェーダー、ノブ、ボタンからの CC メッセージ

コントロールチェンジの ON/OFF が可能です。MIDI リファレンスチャートをご覧ください。

- 受信：
- クロック、トランスポート（再生／停止）
  - 内蔵シンセサイザーのノート・トリガー・メッセージ



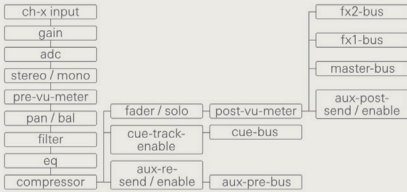
midi cc on

midi cc off

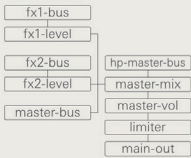
# signal flow

TX-6 フィールドミキサーの入力から出力まで、オーディオ信号の経路の概要を説明し、このミキサーの様々なステージがどのような流れになっているかを解説します。

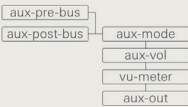
## input channel



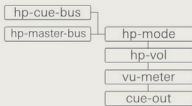
## master



## aux



## headphone



## microphone

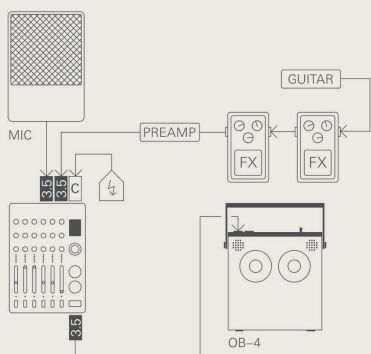
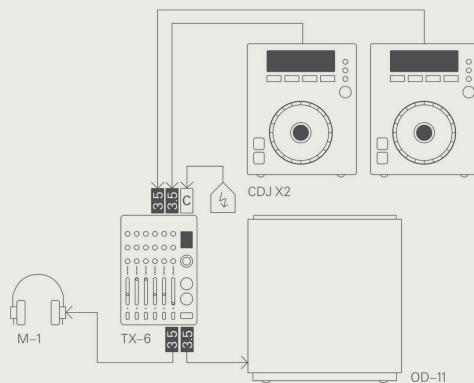
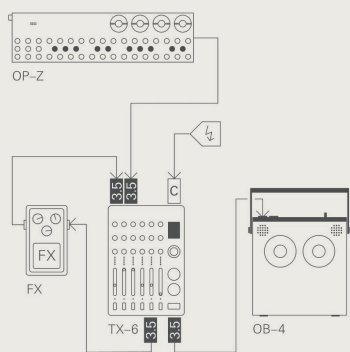
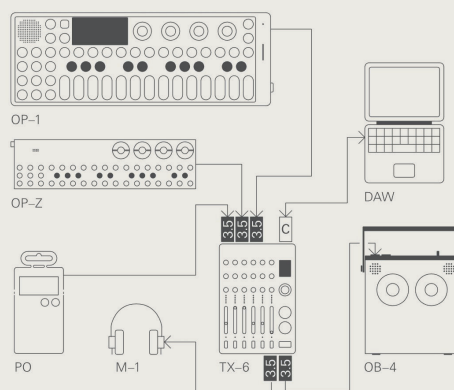
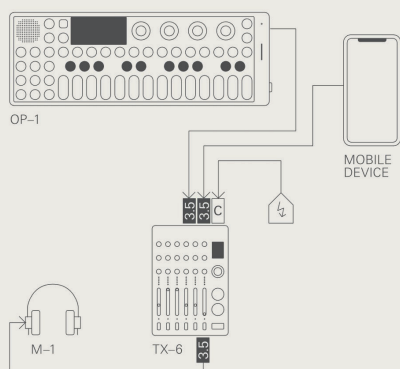


# field

TX-6 フィールドミキサーは、他の teenage engineering 製品と同様、ポータビリティと互換性を念頭に置いて開発されました。

ここでは、OP-1、OP-Z、pocket operator などの対応機器を TX-6 に接続するための様々な方法を紹介しています。

## TX-6 と他の機器との併用



# MIDI リファレンス

## コントローラーモードでの MIDI メッセージ送信

| コントロール     | CC    | チャンネル | レンジ    |
|------------|-------|-------|--------|
| フェーダー      | 1-6   | 1     | 0-127  |
| ブルーノブ      | 7-12  | 1     | 0-127  |
| オレンジノブ     | 13-18 | 1     | 0-127  |
| ホワイトノブ     | 19-24 | 1     | 0-127  |
| track ボタン  | 25-30 | 1     | 0-127  |
| select 回転  | 31    | 1     | -64-63 |
| select ボタン | 32    | 1     | 0-127  |
| fx I ボタン   | 33    | 1     | 0-127  |
| fx II ボタン  | 34    | 1     | 0-127  |
| shift ボタン  | 35    | 1     | 0-127  |
| aux ボタン    | 36    | 1     | 0-127  |
| cue ボタン    | 37    | 1     | 0-127  |

## 内蔵シンセ / シーケンサーへのメッセージ受信

| コントロール          | ノート | チャンネル | モード  |
|-----------------|-----|-------|------|
| start           |     |       | seq  |
| stop            |     |       | seq  |
| clock           |     |       | seq  |
| trigger track 1 | c   | 1     | play |
| trigger track 2 | d   | 1     | play |
| trigger track 3 | e   | 1     | play |
| trigger track 4 | f   | 1     | play |
| trigger track 5 | g   | 1     | play |
| trigger track 6 | a   | 1     | play |

# 技術情報

### TX-6 仕様

- ステレオ入力端子× 6
- ステレオ出力端子× 2
- ステレオヘッドフォンコネクタ× 1、ヘッドセットマイク対応
- USB オーディオ /MIDI インターフェイス
- BluetoothLowEnergy 無線インターフェイス
- 充電式バッテリー
- 8 時間のバッテリー寿命
- 48x64 ピクセルのモノクロディスプレイ

- 入力と出力
- 32 ビット /48kHz USB インターフェース
- 3.5mm ミニジャックから 6.3mm ジャック
- ヘッドセットマイク入力
- aux 出力
- iPhone lightning ケーブル接続
- ステレオまたはモノラル入力

- サイズと重量
- 90 mm (アダプター接続時 102 mm) × 62 mm × 23 mm
- 160g / 5.6 オンス

### 電気的特性

オーディオ入力：  
インピーダンス 10kOhm  
アナログゲイン 0 ～ 42 dB  
最大レベル 8dBu、2 Vrms  
TLV320ADC3140burrr-brown ™  
SNR ～ 102 dBA

オーディオ出力（メインおよび AUX）：  
最大レベル 8dBu、2 Vrms  
cirrus logic masterhifi CS43131  
SNR> 120 dBA

オーディオ出力（cue）：  
最大レベル 2dBu、1 Vrms  
cirrus logic CS47L35  
SNR> 110 dBA

### 取り扱いに関するご注意

動作周囲温度： 0-50° C (32-122° F)

保存周囲温度： 0 ～ 30° C (32 ～ 86° F)

マイクロファイバーの布で本機のシェルを掃除します。フェーダーのほこりは、ブローワーなどで取り除きます。  
バッテリーを適正に保つために、ユニットは少なくとも 6 か月ごとに充電する必要があります。  
長期間使用しないと、再度充電できない場合があります。

# 規制文

teenage engineering TX-6 型番：TE028AS001  
FCC 規制対応

このデバイスは、fcc 規則のパート 15 に準拠しています。操作には、次の 2 つの条件が適用されます。  
(1) このデバイスは有害な干渉を引き起こしてはなりません。  
(2) このデバイスは、望ましくない動作を引き起こす可能性のある干渉を含め、受信した干渉を受け入れる必要があります。

警告：コンプライアンスの責任を負う当事者によって明示的に承認されていない変更または修正を行うと、機器を操作するユーザーの権限が無効になる可能性があります。

注：この機器はテスト済みであり、fcc 規則のパート 15 に準拠したクラス b デジタルデバイスの制限に準拠していることが確認されています。これらの制限は、住宅設備での有害な干渉に対する合理的な保護を提供するように設計されています。この装置は、無線周波数エネルギーを生成、使用、および放射する可能性があり、指示に従って設置および使用しない場合、無線通信に有害な干渉を引き起こす可能性があります。ただし、特定の設置で干渉が発生しないという保証はありません。この機器がラジオやテレビの受信に有害な干渉を引き起こす場合は、機器の電源をオフにしてからオンにすることで判断できます。ユーザーは、次の 1 つ以上の方法で干渉を修正することをお勧めします。

- 受信アンテナの向きを変えるか、位置を変えます
- 機器と受信機の間の距離を増やします。受信機が接続されているものとは別の回路のコンセントに機器を接続します。
- ディーラーまたは経験豊富なラジオ / テレビ技術者に相談してください。

この装置は、制御されていない環境に対して定められた fcc 放射線被曝制限に準拠しています。エンドユーザーは、RF 曝露への準拠を満たすために特定の操作手順に従う必要があります。この送信機は、他のアンテナまたは送信機と同じ場所に配置したり、一緒に操作したりしないでください。ポータブルデバイスは、fcc によって確立された電波への曝露の要件を満たすように設計されています。これらの要件により、1 グラムの組織で平均 1.6 W/kg の SAR 制限が設定されます。製品認証中に報告された、身体に適切に装着され、間隔が 0 mm の場合に使用される最高の SAR 値は、0.91 W/kg です。

FCC ID : Z23028A

ised regulatory compliance

this device contains licence-exempt transmitters that comply with innovation, science and economic development canada's licence-exempt rss(s).

operation is subject to the following two conditions

- (1) this device may not cause interference.
- (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of the device.

this equipment complies with ISSED radiation exposure limits set forth for an uncontrolled environment. end user must follow the specific operating instructions for satisfying rf exposure compliance. this transmitter must not be co-located or operating in conjunction with any other antenna or transmitter.

the portable device is designed to meet the requirements for exposure to radio waves established by ISSED. these requirements set a SAR limit of 1.6 W/kg averaged over one gram of tissue. the highest SAR value reported during product certification for use when properly worn on the body, with 0 mm separation, was 0.91 W/kg.

IC: 9915A-028A

conformité réglementaire d'ised

l'émetteur exempt de licence contenu dans le présent appareil est conforme aux cnr d'innovation, sciences et développement économique canada applicables aux appareils radio exempts de licence. l'exploitation est autorisée aux deux conditions suivantes:

- (1) l'appareil ne doit pas produire de brouillage;
- (2) l'appareil doit accepter tout brouillage radioélectrique subi, même si le brouillage est susceptible d'en compromettre le fonctionnement.

cet équipement est conforme aux limites d'exposition aux rayonnements ISSED établies pour un environnement non contrôlé. l'utilisateur final doit suivre les instructions spécifiques pour satisfaire les normes. cet émetteur ne doit pas être co-implanté ou fonctionner en conjonction avec toute autre antenne ou transmetteur.

l'appareil portable est conçu pour répondre aux exigences d'exposition aux ondes radio établies par l'ISED ces exigences établissent un SAR limite de 1.6 W/kg en moyenne pour un gramme de tissu organique. la valeur SAR la plus élevée signalée lors de la certification de produit à utiliser lorsqu'il est correctement porté sur le corps, avec une séparation de 0 mm, est 0.91 W/kg.

IC: 9915A-028A

eu compliance

hereby, teenage engineering declares that the radio equipment type TX-6 is in compliance with the CE directive. the eu declaration of conformity is available here

frequency band:  
2400 - 2483.5 MHz

maximum output power:  
10 dBm EIRP

uk compliance

hereby, teenage engineering declares that the radio equipment type TX-6 is in compliance with radio equipment regulations 2017. the full text of the UK declaration of conformity is available here

recycling

electrical and electronic equipment, parts and batteries marked with this crossed-out wheellie bin symbol must not be disposed of with normal household waste, it must be collected and disposed of separately to protect the environment. this product contains a built in Li Ion battery.

本製品にはリチウムイオン電池が内蔵されています。

